

第3回臨時総会 議事録

文責：祖父江 有祐（筑波大学）

日時 令和3年10月18日 21時～

場所：オンライン開催（zoomを利用）

議題

議決事項

（議決事項）

1. ロング選手権のみの開催（秋インカレ）
 2. 開催可否基準の撤廃（秋・春共通）
- （投票事項）
3. 選手権成立基準について（秋・春共通）
 4. 単日開催時の種目について（春インカレ）

採決スケジュール

議決事項

本総会終了後、YouTubeにてレコーディングの公開・質問受付
Google Formにて投票受付、2021年10月20日締め切り

投票事項

本総会終了後、YouTubeにてレコーディングの公開・質問受付
Google Formにて投票受付、2021年10月25日締め切り

1. ロング選手権のみの開催（秋インカレ） 議決事項

【若月】 開催に向けて準備を進めているが、今後の感染状況次第では会場利用等で制限を受ける可能性がある。しかしその場合もロング選手権の部のみの開催なら実現可能性があるという提案を実行委員会からいただいている。ただしこの場合スプリントは中止、一般の部の開催も不可能となり参加費が大幅に減少する。秋インカレ単体で200万円の赤字が見込まれ、大きな支出が発生しうるため承認をいただく必要があり、今回の議題とした。

幹事会での議論ではどのような形態であれ開催をすることが望ましいという方針で一致した。その上で今後の会計シミュレーションを実施し最大200万円程度の赤字も許容できると判断した。会計状況については後程説明する。

総会での決議としては、今後発生しうる最大200万円の支出についての承認を得ることである。

2. 開催可否判断基準の撤廃について（秋・春インカレ） 議決事項

【若月】 会計状況の説明に入る前に2つ目の議題である「開催可否判断基準の撤廃」について説明する。今度の秋インカレと2月の春インカレ共通の議題である。現在日本学連で定めている開催基準は昨年度のものを引き継ぎ「選手権の部 3/4 以上の参加」をもって開催を判断していた。「3/4」という数字は昨年度幹事会で「会計面」と「選手権の質」という2点から設定されたものである。ただし「会計面」の問題さえクリアできてしまえば、「選手権の質」の判断と大会をやるかやらないかの判断を結びつける必要は無い。筑波大学からも開催可否基準見直しを求める意見書が出たことに加え、春インカレの実行委員会からも提案があった。改めて基準について見直し・撤廃を目指して会計状況等の精査を行ってきた。幹事会の方針としては、スポーツ庁の保障事業への申請が通りそうであること、収入を増やす取り組みを組み合わせるなどして会計面の問題はクリアできると判断した。すなわち会計面の問題からの開催可否基準の判断は撤廃できると判断した。

総会での採決としては、開催基準撤廃に伴い発生しうる赤字分を学連会計から補填することの承認である。

会計状況の整理

【若月】 議題①②の説明は以上である。お金に関わる問題であり現在の日本学連の会計状況が分からないと判断が難しいだろうということで会計状況の説明を行っていく。

現在日本学連の口座残高は約950万円。これとは別に緊急時用の資金として1700万円程度。昨年度(2020年度)の決算は、加盟費の大幅な減収、インカレの赤字分の補填があり400万円の赤字となっている。これら状況を踏まえて2021年度～2023年度の決算シミュレーションを実施した。加盟員現象の影響が2～3年は続くとして、インカレの収支を0と計上しても3年間で160万円の赤字が予想されるという結論になった。インカレの赤字分を補填するとなるとここに加えてさらに支出が発生することになるが、現在の口座残高や会計シミュレーションからはインカレ単体で最大200万円程度の支出であっても許容できると判断している。

赤字負担軽減・収入増加への取り組み

【若月】 赤字分を手放しで受け入れるのも難しいので、赤字の負担軽減および収入を増やす取り組みも検討している。

一つ目はスポーツ庁補助事業の申請。これは緊急事態宣言の発令等により政府からの要請に基づき中止した場合、大会準備にかかった費用を補填してもらえる制度。これは昨年度と比べて大きく改善された部分であるだろう。直前で中止を迫られると損失が大きくなってしまふという点から昨年度は余裕を持った開催判断が求められていた。今年はこの制度によってリスク回避ができるため開催直前まで準備を進めることができ、1ヶ月前時点での開催可否判断基準は撤廃できる。

収入増加に向けて賛助会員の募集強化、寄付金付きグッズの販売を検討している。学連外

部 (OB・OG) へのヒアリングにより寄付金の支援を募る動きに対して肯定的な意見を頂いた。

加えて映像配信事業の費用負担の軽減。昨年度から始めた YouTube 配信は大きな費用負担となっていた。これについては UNIVAS と連携することで今年度は学連実費負担を 1/3 程度に軽減できる見込みが立っている。

こういった赤字負担分の軽減やリスク回避、収入増加への取り組みから最大 200 万円という大きな赤字も許容できると判断している。

外部へのヒアリング

【若月】 これについて外部にヒアリングをおこなった。

はじめに JOA のアスリート委員会に相談してアドバイスをいただいた。

学生時代にインカレを経験した OB・OG からは金銭的な理由でインカレが中止になることは望ましくない。またインカレは学生オリエンテーリング界だけでなくオリエンテーリング界全体にも大きな意味を持つため、外部から寄付を募ることに批判的な声は少ないだろう、といったアドバイスをいただいた。

開催可否判断基準の見直しについては春インカレの実行委員会からも要望を頂いている。今回春インカレ実行委員長の藤本氏に参加いただいているので、この件に関連してお話いただきたい。

【藤本】 ICMR2021 実行委員長を務める京大 OB2 年目の藤本です。はじめに前提として、実行委員会の方針について説明する。今年度の実行委員会の方針として春インカレを確実に開催することを掲げている。これはインカレの継続性のためである。ICMR は 2 年連続中止となっていて、3 年連続の中止は避けたい。3 年連続の中止となると春インカレを知る世代がいなくなってしまう。一度途絶えてしまったものを取り戻すのは大変ということから今年度は確実に開催することを目指している。

対策としてひとつ目は開催日の 2 月への前倒し。例年の開催日を予備日にすることでコロナ理由の中止リスクを低減している。2 つ目としては宿泊を全て 1 人部屋にすることで大学からの規制への対応を行っている。ただ、昨年度の中止は参加者数によるものである。今年も同じような理由で中止となる可能性が低くないと考えられ、改めて開催判断基準を再考してもいいのではないだろうか。実行委員会としての見解は、地元渉外での問題が無ければ開催するべきであり、学連・実行委員会側から自発的に中止するべきではないと考えている。注意点としては地元渉外によって難色を示されている場合にも強行開催するというわけではない。渉外問題の発生はインカレの継続やその地域でのオリエンテーリングの継続を脅かし、本末転倒である。あくまで開催地域からの中止要請等が無いという条件のもとでは、人数による開催可否判断基準は設けない方がいいのではないかと考えている。

実行委員会からは以上である。

【若月】 お話いただいたように自発的な中止を無くしていくということである。継続性

という観点からもインカレを開催したいというのは幹事会でも一致していることであり、会計面の問題も許容出来るだろうということで議題とさせてもらった。議題①②は手続き上は支出の承認ということになるが、内容を理解した上で承認をお願いします。

議題①②の投票期間については10月20日を締め切りとする。

3. 選手権成立基準について（秋・春インカレ） 投票事項

【若月】 秋春共通の議題である。従来の開催判断基準である「選手権の部 3/4 以上の参加」は「会計面」と「選手権の質」という2点から設定されたものである。前半の議題が承認され「会計面」の問題はクリアされるとなった場合、「選手権の質」という観点から別の基準を設ける必要があるのではないかとということで議題として挙げている。大会を開催するかどうかとは別の話で、大会を開催した上でそれを選手権大会として認めるかどうかの話である。

幹事会での議論では、成立不成立の判断基準として以下の3つがまとめられた。1つ目は従来通りの選手権参加者数の割合による基準、2つ目は参加状況や帰省状況を踏まえて総会での決議により決定、3つ目は大会が開催された場合は選手権として認めるというものである。総会では3つの選択肢のうちどれがふさわしいか、割合で決定する場合はその数値設定をどうするかを投票いただきたい。

各選択肢の説明

【若月】 それぞれの選択肢について説明する。

1つ目の「選手権の部参加者数の割合で決定」は従来の基準を引き継ぐものである。従来の基準決定の背景として「世界選手権で一定の参加国数を基準としていた」ことがあり、数値として基準を設けることが考えられる。

2つ目の「事前の総会決議により決定」は過去に近い出来事がある。インカレ直前にテレビン変更を余儀なくされたケースがあり、そこでは公平性の観点の問題として指摘され、大会前日に総会を行い選手権の部として認めるかどうかの決議がされた。

3つ目の「設定しない」は大会が開催された場合はそれを選手権として認めるというものである。これは、競技の質としてみればそれは参加者数によるものでなく、地図やコースの質といった運営の問題であるという考えに基づいたものである。

この議題についても各所からヒアリングを行った。

JOA アスリート委員会からの意見としては選手権が開催されることが望ましいとされている。数値を決めるのであれば3/4や2/3が妥当だろう、総会で合意が得られるような内容であればどういった基準であっても問題ないであろうといった意見もいただいた。

日本学連技術委員からは、競技性の担保は運営の品質によるものであり出場者数には依らない、一定数以上の出場者数を基準とするのは世界選手権等を鑑みてもおかしくない

いった意見をいただいた。

春インカレ実行委員会

【藤本】 選手権成立のための人数ということだが、まず前提としてこれは規則等に定められていないものである。実行委員会内でもさまざまな意見があるが、オリエンテーリングという「競技の質」という点で言えばそれは運営の質であって参加者数では決まらないという意見が多く上がっている。考えとしてあがったのは、事前に人数で基準を設けるのではなく、参加者からの調査依頼から提訴というフローに則するというものもある。実行委員会としては、これは春インカレについてだが、選手権者や選手権校を途絶えさせていいのか。大会が開催された場合でも競技が不成立になった場合 3 年連続で途絶えることになる。繰り返すことになるが、渉外上開催できなかつたり競技不成立になつたりでなく、自発的に途絶えさせてしまつていいのだろうか。インカレは学生全体のもので様々な価値観があるだろうが、「日本学生オリエンテーリング選手権大会」なので選手権者を決めないで価値を保てるのか、魅力を伝えられるのか。この話としては以上だがついでに話すと、コロナの状況が不透明な中で様々な思いがあるだろうが最終的にどうするかを決めるのは学生の皆様自身。その決定に基づいて実行委員会は動いていく。ただ、インカレの継続性は頭に入れておいてほしい。自分が幹事長だった時は中止にするという判断になったが、当時の情勢を踏まえてインカレの継続性を考えた上での中止判断だった。どのような結論になったとしても、インカレの未来につながるような決定をしたと思えるような結論に至ってほしい。実行委員会からの意見は以上である。

【若月】 ありがとうございます。今年の話でなく今後のインカレを考えた上で、我々にとってインカレはどういうものなのかも考えながら各校で判断をお願いしたい。

4. 単日開催の種目について

【若月】 春インカレで開催の判断フローによっては単日開催を迫られる可能性もある。その際にミドル競技部門を行うかリレー競技部門を行うかの方針決定を行う必要がある。昨年度の決定としてはミドルのみを行い 3 人の合計でリレー選手権校を決めるという案で落ち着いた。ただそれぞれメリットデメリットがある。例えばリレー競技に関しては、2 年連続できていないためリレーを開催したほうがいいだろうという意見が幹事会で上がっている。またタイムの合計と違うリレー独特の雰囲気があるというのもリレー競技の特性と言えるだろう。

ミドル競技の利点としては個人戦主権者を決めつつ団体の選手権校が決められる、翌年の枠振り計算が行えるといったメリットがある。

今回の総会ではこの 2 つの選択肢のうちどちらがよりふさわしいかを投票いただきたい。2 年連続で中止となっているという背景も踏まえた上でどうするのが良いか考えていただきたい。

後半の議題については前半とは別で締め切りを設ける。10月25日いっぱい締め切りとして Google Form で投票を行う。

最後に全体を通して意見・質問などあればお願いします。

【森清】 早稲田渉外の森清です。議題①について、現在はスプリントロング両種目の開催を目指しているということで間違いないか？

【若月】 間違いないです。渉外上会場利用等の制限を受けた場合にはこういったことを考えなければならぬため議題に上げたものである。

【森清】 その場合仮に現行日程でのインカレスプリントロング開催を断念した場合、別日程での開催は検討するだろうか？

【若月】 延期の可能性も検討する必要はある。感染状況や延期先の日程を考えた判断となるが、それはその都度判断していくことになる。

【森清】 補足で一つ質問だが、ロングよりスプリントの方が渉外が難航しているためロング選手権のみの開催を検討しているということか？

【若月】 はい。会場利用の制限を受けるとなるとスプリントの選択肢は閉ざされてしまう。ロング選手権の部のみの開催であれば森の中で開催が可能ではないかということでロング選手権の部のみとして話を挙げている。

後程 YouTube にもレコーディングした動画をアップロードする。スケジュールは短いですが投票をお願いします。

最後にお知らせ・お願いという形で何点か話がある。

1点目は各校の規制状況の確認である。開催可否判断のためスプレッドシートへの記入をお願いしていたが、各校の規制状況を把握しておきたいため記入・更新を引き続きお願いします。

2点目は昨日までを申請期限としたものだが、ONE TAP SPORTS for UNIVAS の登録である。インカレ 2 週間前からの体調記録で使うので未登録の人は登録手続きをするようにお願いします。

3点目は寄付金付きグッズの販売。後程広報するがインカレ限定トリムを作成・販売する。売り上げの一部は日本学生オリエンテーリング連盟の活動資金として SALMING 様から寄付いただくことになっている。ぜひ宣伝・広報のほどよろしくお願いします。

本日の臨時総会は以上で終了とする。